

# 少年の成育過程と非行のつながり

小林葵

- 1 はじめに
- 2 現代の少年非行の特徴
- 3 非行要因と背景
- 4 おわりに

## 1. はじめに

近年、メディアに取り上げられている少年事件において、非行を犯した少年が、事件の背景まで詳しく知らない世間の人たちから一方的に非難を浴び、「少年が悪い」、「早く厳罰化すべきだ」などといった声が多く見受けられる。非行を犯した少年に非があることは当たり前である。しかし、少年は大人に比べ未熟であり、周りの環境に影響を受けやすいというのもまた事実である。少年の成育過程や、周りの環境をよく知らないまま、少年に対し一方的に非難するのは、今後の少年非行の問題解決にはつながらないと考える。

そこで、非行少年と、その家族や学校生活において関わった人など、非行少年が関わってきた人たちや周りの環境との関係性について検討していきたい。

## 2 現代の少年非行の特徴

令和3年度版犯罪白書の、主に3つの項目について検討していきたい。まず、少年による刑法犯の検挙人員をみると、少年による刑法犯の検挙人員は、平成16年以降減少し続けており、令和2年においては、2万2,552人と、前年に比べ減少している。次に、令和2年度における、少年による刑法犯の検挙人員・少年比（罪名別、男女別）の表をみていく。総数では、窃盗が12,514人とほかに比べて圧倒的に多く、次いで傷害罪の2,033人、横領罪の1,834人、暴行罪の1,291人の順になっている。最後に、少年のみによる刑法犯の検挙事件の共犯率・共犯者数別構成比の図を見ていきたい。総数をみてみると、少年のみによる事件での共犯率は25.4%で、成人のみによる事件での共犯率（12.0%）よりも高い結果となっている。<sup>1</sup>このように、成人よりも複数の人数で非行に関与する傾向が高いことから、少年非行は周りの環境や人間関係が深く関わってくるのではないかと考える。

## 3 非行要因と背景

---

<sup>1</sup> 令和3年版犯罪白書 第3編 少年非行の動向と非行少年の処遇 [001365732.pdf \(moj.go.jp\)](https://www.moj.go.jp/001365732.pdf)

平成 22 年度に公表された、内閣府による「非行原因に関する総合的研究調査」<sup>2</sup>を見てきたい。この調査の対象者は、小学生から大学生までの一般少年、警察に補導された 12 歳以上の触法少年及び、犯罪少年、少年鑑別所少年、その保護者となっている。

まず、少年と親子関係についてみていきたい。親から愛されていないと感じるか、という質問では、中学生の一般少年は 21.3%、非行少年は 26.4%、高校生の一般少年は 19.0%、非行少年は 20.0%が感じると答えた。親は家の中で暴力をふるうか、という質問に対しては、中学生の一般少年は 8.7%、非行少年は 15.0%、高校生の一般少年は 6.1%、非行少年は 10.9%がふるうと答えた。また、親は自分の事を信頼しているか、という質問に対しては、中学生の一般少年は 74.9%、非行少年は 62.3%、高校生の一般少年は 73.2%、非行少年は 68.7%がしていると答え、非行少年の方が少ない結果となっている。小学生に対する、友達について親と会話をする頻度の質問では、よく話すと答えたのは、一般少年が 45.8%、非行少年が 9.4%と、非行少年が圧倒的に少ない結果となっている。親との信頼関係がこの頻度の差につながってくるのではないかと考える。親が子どもの友人関係についてよく知らないでいると、子どもが非行の道へ行こうとしても気づかないままになると、引き留められなくなる可能性が高くなると考える。また、夕食を家族とともにする頻度は、いつも一緒に食べると答えた人が、中学生の一般少年が 62.6%、非行少年が 39.6%、高校生の一般少年が 47.8%、非行少年が 35.2%と、どちらも非行少年の方が少ない結果となっている。夕食などの食事を一緒にすることも、親と子どもが会話する、よい機会となる。一緒に食事をする機会が少ないということは、同時に親と会話をする機会も少なくなってしまうのではないかと考える。

次に、最近一年間で経験したことについてみていきたい。友達とゲームセンターで遊んだことが 1 度以上あると答えた非行少年は、中学生が 93.1%、高校生が 96.5%で、どちらも一般少年より高くなっている。また、友達とカラオケボックスで遊んだことが 1 度以上あると答えた非行少年は、中学生が 83.5%、高校生が 93%とどちらも一般少年より高い結果となっている。タバコを吸ったことが 1 度以上あると答えた一般少年は中学生が 4.9%、高校生が 13.4%なのに対し、非行少年の中学生は 69.6%、高校生は 73.5%と、非常に高くなっている。友達と酒を飲んだことが 1 度以上あると答えた一般少年は中学生が 8.2%、高校生が 29.3%で、非行少年は中学生が 64.5%、高校生が 76.1%という結果となっている。さらに、友達と深夜まで遊び回ったことがあると答えた一般少年は、中学生が 12.7%、高校生が 39.9%、非行少年は、中学生が 75.8%、高校生が 81.5%となっている。ほとんどの項目が一般少年よりも非行少年の方が、割合が圧倒的に多い結果となっている。未成年の飲酒や喫煙は、親からの影響とは考えにくい。飲酒や喫煙などを身近に感じ、行動に移してしまうのは、交友関係が最も関係しているのではないかと考える。

#### 4 おわりに

---

<sup>2</sup> 第 4 回 非行原因に関する総合的研究調査 [非行原因に関する総合的研究調査\(第 4 回\) \(全文 PDF\)](#) ([cao.go.jp](http://cao.go.jp))

上記の研究調査で非行少年の方が割合が多かった、「親から愛されていないと感じる」、「親は家の中で暴力をふるう」といったものは、寂しさや孤独感を感じ、家庭外での居場所を求めてしまうと考える。親とのコミュニケーションが少なく、信頼関係がうまく築くことができなかつたり、愛情を注いでもらったりする経験が幼少期から少ないと、承認欲求が満たされず、精神的な土台が作られなくなると考える。そのため自分の感情や欲求をコントロールするのが難しく、非行に走りやすくなると考える。また、家庭内で孤立していると感じるため、家庭外で仲間を作ろうとし、その友達しか味方はいないと感じ、嫌われたり、見捨てられたりしないよう、自分の気持ちを隠すことで、共犯にもつながってってしまうのではないかと考える。家庭内で親が暴力をふるうことが多いということは、暴力が日常茶飯事の環境に身を置いているため、自分が暴力をふるうことへのためらいが減ってしまう。さらに、家庭内で虐待をされている場合、家庭が子どもにとって安心できるような場所ではなく、ストレスとなる場所になってしまう。本来、子どもにとって家庭は、日常のストレスなどから退避できる、安心できるような場所ではなくてはならない家庭が、そうではなくなると、逃げ場を失い、さらにストレスが蓄積し、窃盗や暴力といった非行に走る要因になると考える。非行の原因となりうる家庭内での虐待や暴力を減らすために、根本的に、親が子育てをしていく中での悩みやストレスを減らすことが必要になってくると考える。そのため、親が気軽に相談できる場所を積極的に設けるなど、親への対応も行っていくことが大切である。

また、よくない交友関係から離脱するためには、少年の孤立を防ぐために、学校外でも、気軽に立ち寄り、多くの人とコミュニケーションのとることのできるような居場所づくりなどの支援が必要であると考え。以上のように少年非行は、家庭環境や交友関係が深く関わっているため、表向きの援助だけでなく、根本的な部分から改善していく必要があると考える。